
Diary

奈津美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Diary

【Nコード】

N5979C

【作者名】

奈津美

【あらすじ】

小学一年生の夏。日記帳がなかなか埋まらなかった哀。ほのぼのとしたお話です。この話は、去年書いた話なので文章力や話の構成が無いです。そういうのが嫌という方はお戻り下さい。

今日も何を書いていいのかわからない。

哀は、何度も書いては消してを繰り返した。

夏休みの宿題、日記。

哀はこれにとってもとても苦しんだ。

毎日毎日同じような日を過ごしてきた。

少年探偵団のみんなと遊んだ日や、キャンプに行った日だけは

びっしりと文字で埋まっている。

しかし、一人で過ごした日々は空欄だ。

研究、研究、研究。

それは、あまりにも小学生っぽく無いので書けなかった。

なにか子供じみたことでもしようと哀は何度も考えたが、

子供じみたことが何なのかいまいち良く分からなかったのだ。

「哀君、カキ氷でも食べに行こうか」

みぞれしか食べたこと無かったんだけど、

このお店・・・みぞれなんて置いてないみたい。

「えっと」

「ワシは、レモンにしようかのぉ」

哀はメニューに目を通す。

すると、哀の目には『氷いちご』

という文字が目に入った。

「いちご」

「え??？」

「私、いちごがいい」

「じゃあ、いちごとレモンを下さい」

「かしこまりましたあゝ」

哀は少し微笑みながら、氷いちごを手にした。

いちごなんて、食べようと思ったことすらなかった。

色が綺麗で、私には似合わない。

だから、みぞれしか食べなかった。

色が無いから。

「哀君がいちご好きだとは知らなかったのぉ」

「初めてよ」

「そうじゃったのか」

哀はゆっくりとかき氷を口に入れた。

いちごの甘味がフワッと口の中に広がる。

こんなに美味しかったのね・・・

「博士」

「なんじゃ??」

「ありがとう」

「分かんない！！けど、もう5年も経っちゃったから・・・捨てちやったかも」

「そう。私はこの日記、大事に取っておいたのよ」

「歩美も取っておけばよかったなあ」

日記。

それを開けば、昔に戻れるような気がして

私はずっとずっと大事に取っておいた。

あなたにも、戻りたい過去はあるかしら？

私は、もう一度昔に戻って・・・もっと素直に生きたい。

けど、それはもうできないから

これからを精一杯生きていくって決めたの。

私の家族や、私を支えてくれる人。私の周りの人のために。

「ねえ、哀ちゃん」

「何??」

「哀ちゃん、また日記書かない??」

「え??」

「歩美も書くからさ、また五年後に読み返そうよ!」

「いいわよ」

「やったあ」

五年後読み返す時までには

素直な私になれていますように・・・

(後書き)

奈津美です。

この話は、去年の冬に書きました。

冬に夏物書くのもちょっとおかしいと思いますが。

この話、何が言いたいのかわからないんですけど
懐かしいので投稿しちゃいました。

一応、三点リーダと句点だけ付け直したりはしました。

が、文章自体は一切変えていません。

かき氷のシーンが書きたかっただけだと思いますw w

どういう気持ちでこれを書いてたのか思い出せないんですよ……

(笑)

暇なときに直したいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5979c/>

Diary

2010年10月8日22時55分発行